

緊急対応ユニット（ERU）について

1 緊急対応ユニット（Emergency Response Unit：ERU）とは

1980年代後半から1990年代にかけて、アルメニア地震、湾岸戦争中の大量のクルド難民発生、アフリカ大湖地域の難民危機などの複合危機の中で人道支援団体は新たな対応を迫られることとなった。ERU構想は、このような緊急事態、大規模災害への即応体制構築の必要性の中から生まれ、現在では国際赤十字・赤新月社連盟（以下、連盟）の災害対応ツールの中で重要な役割を担っている。ERUの基本的な考え方は、以下の2点に集約される。

- ① 緊急事態、大規模災害発生に備え、各国赤十字社が緊急出動可能な、訓練された専門家チームおよび標準化された資機材を整備しておく。
- ② 緊急事態・大規模災害発生後、各国赤十字・赤新月社は連盟の調整のもと、出動要請から48～72時間以内にERUを出動し、出動後は当面1カ月間、他からの支援を得ることなく自己完結型のチームとして活動を行う。最長4カ月間は各国赤十字・赤新月社が人員、経費の両面からERUを維持し、その後は連盟や現地赤十字社の事業に統合されることになる。



2 日本赤十字社の保健医療 ERU

日本赤十字社（以下、日赤）は、保健医療系のERUを整備・保有しており、病院ERUの整備が完了する令和3年度以降、災害の種類や規模等に応じて下記の出動形態を想定している。

（1）診療所 ERU

基礎保健および小規模手術を含む基礎医療を行う。日赤の診療所ERUは、対象地域人口3万人に対し、緊急的な治療・予防・地域保健サービスを提供する。

（2）病院 ERU

日赤の病院ERUは現有の診療所ERU2基に、病院化に必要な資機材を追加することにより病院ERUを展開し、対象地域人口25万人に対し、大規模手術および入院を含む総合医療を提供する。

3 病院 ERU とは

(1) 医療コンセプト

病院 ERU は、緊急事態・大規模災害時に機能不全に陥った活動地の保健医療システムの補完・補足するために設置する。病院 ERU では 24 時間の診療ができるため、入院加療が必要な内科疾患、救命目的の急性疾患の手術および異常分娩への対応などが可能となる。医療インフラがまったくないか大きな損壊を受けている状況においては被災者の避け得る死亡を可能な限り減らすことを第一目標とする。次に、四肢外傷による後遺症を最小限にする治療を行うなど患者の生活の質を毀損せず、尊厳を守ることを目標とする。



(2) 基本的な機能

	病院 ERU	診療所 ERU (既存)
機能	手術・入院設備を備えた後送医療施設 (2次医療)	診療所や巡回診療 (地域保健等を含む1次医療)
病床数	20～ (最大 100 程度)	なし (夜間の経過観察は可)
診療範囲	外科、内科、産科、救急等	内科、救急、小手術等
標準展開期間	4～6 カ月	4 カ月
要員交代期間	1 カ月	1 カ月
必要要員数 (現地スタッフ除く)	約 30 人 ※1 カ月あたり	13 人 ※1 カ月あたり